

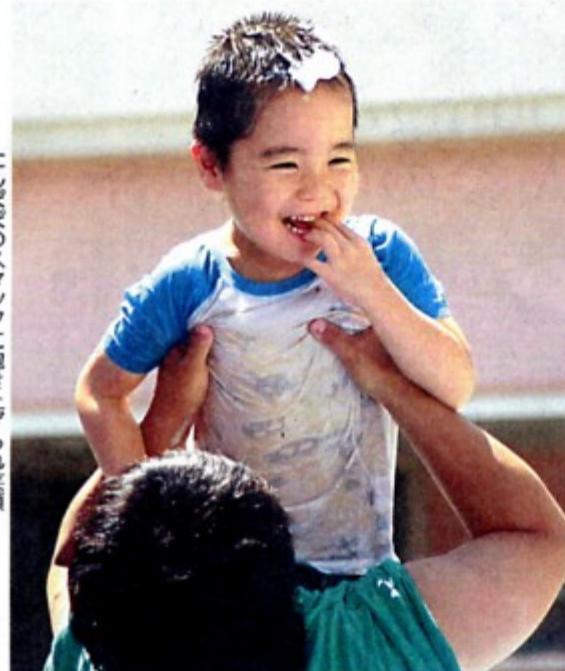
たんぽぽ

伊佐市の挑戦

(6)

「大ちゃんを小学校に連れ
てつてあげる」
近所の子どもの言葉に、下
原暁子さん(37)の心が揺れ
おしゃべりが苦手で、感情を
うまく表現できない。6月、
自閉症と診断された。
同じ団地の子どもたちと一緒に遊ぼうとはしない。でも、二コ二コとみんなを見守つている。みんなも「大ちゃん」が好きだ。

大祐さんは来春、たんぽぽを卒園する。出水市の出水養護学校小学部に入学させるつもりだ。「生活全般に手助けが必要な大祐には、養護学校が一番いい」と決めた。
でも……。「この子たちにお願いしたら、小学校で楽し



たんぽぽのスタッフに抱き上げられ笑顔
の大ちゃん。来春、たんぽぽを卒立つ

学校選び 摆れる親心

くやっていけるのでは」。無学級、そして特別支援学校。
邪気な子どもたちの笑顔に、三つの選択肢を前に、母親
心が揺れた。
来春、たんぽぽから20人が
巣立つ。通常学級、特別支援

*

安徳直子さん(37)は昨秋、
眠れない夜を何度も過ごし
た。長女莉子ちゃん(6)は、2
歳までに5回の外科手術を受けた。今も医療ケアが欠かせない。地元の小学校を見学した時、莉子ちゃんは飼育小屋にくぎ付けになつた。「ウサギのお世話係になる」とはじめた。

長女莉子ちゃん(6)は、2歳までに5回の外科手術を受けた。今も医療ケアが欠かせない。地元の小学校を見学した時、莉子ちゃんは飼育小屋にくぎ付けになつた。「ウサギのお世話係になる」とはじめた。

*

「この子のために」。今は、母親たちとことん話し合う。下原さんには、「大ちゃんが生活の基本を身に着けられるために」と出水養護学校を勧めた。大祐さんが将来、社会で自立できることを願つた。

堀ノ内園長には苦い経験がある。養護学校への進学が最適と考えた園児がいた。両親は地元小学校にできた特別支援学級を選んだが、1年足らずで学校に通えなくなつた。

頬がはじける。安徳さんは選択が間違いではなかつたと実感する。

子どもの将来とことん話し合う

「莉子ちゃんが気後れすることなく、安心して『学校が楽しい』と感じられるところを選びましょう」。堀ノ内園長(48)のひと言が背中を押した。出水養護学校を選んだ。出水養護学校を選んで、莉子ちゃんが帰つてくる。「今日も楽しかったよ」。笑

たくさん流した涙。だから、きょう笑顔になれる。たくさんのかの笑顔に囲まれて、92人の笑顔に咲かせる。(終わり。この連載は、たんぽぽが可能性の花を咲かせる。)浦上太介、新屋敷さつき、郷明生が担当しました)